



あいあい通信



2023 年 6 月

『おっぱいとお薬について』

便秘や胃薬など、そのときの症状を一旦おさめるためにお薬を使いたいときもありますね。授乳中でも使えるお薬はあります。

お薬を使うときに気をつけることについて、当院の薬剤師から Q&A 方式でお話いたします。

Q：授乳中にお薬を飲むと赤ちゃんに影響するのではないですか？



A：多くのお薬はお母さんの母乳中に移行しますが、その量はごくわずかであるため、赤ちゃんに何らかの影響をおよぼすことはほとんどありません。中には影響が出ることがわかっているお薬もありますが多くは授乳を続けられると考えられています。

Q：授乳中にお薬を飲むときに気を付けることはありますか？



A：医師の診察を受けるときに授乳中であることを伝えてお薬を処方してもらうことや決められた用法用量を守りましょう。また、赤ちゃんの様子を観察して発疹が出たなど心配なときは、小児科で相談しましょう。



Q:頭痛持ちです。普段飲んでいる
痛み止めは使えますか？
授乳中に安心して飲める痛み止め
はありますか？



A:病院を受診することができないなど一時的に市販薬を使う場合には、購入時に薬局で相談し、商品の箱に書いてある成分名を確認するとよいでしょう。

授乳中に服用できると考えられている痛み止め（成分名）は、アセトアミノフェンやイブプロフェン、ロキソプロフェンナトリウムなどがあります。これらの成分のお薬は医療用医薬品にも市販薬にもありますので、市販のお薬であっても病院で処方される時と同じ成分のお薬を選ぶことができます。但し、市販薬は医療用医薬品と違って複数の成分が配合されている商品もあり、必ずしも必要でない成分も服用してしまうことがあります。単一の成分で医療用医薬品と成分名が同じ市販薬の一例を以下にお示します。

成分名	医療用医薬品	市販薬
アセトアミノフェン	カロナール	タイレノール A®
イブプロフェン	ブルフェン	イブ®
ロキソプロフェンナトリウム	ロキソニン	ロキソニンS®

授乳中にお薬を服用する際にわからないことがあればかかりつけ医にご相談ください。国立成育医療研究センター「妊娠と薬情報センター」には授乳中のお薬に関する情報があります。こちらのホームページもご参考ください。



次回 9 月『母乳と栄養』についてのお話です！



大阪市立十三市民病院 4 階母乳育児推進チーム

